



# いずみ

令和7年5月30日発行

<学校教育目標>  
自ら行動する子  
かかわり合い、  
よりよい自分を  
目指す子

学校HP



コミュニティ  
スクール



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

## ふれあい月間 ～「ま」ぬけから見る「ちがい」の尊さ～

生活指導主任 関 哲也

私は、よく失敗をします。

職員室に何かを取りに戻ったのに— 何を取りに来たのか、すっかり忘れて立ち尽くします。カバンがないと焦って探し回っていたら肩にかけたままだったり、子供たちとの会話が盛り上がりつい自分のことをパパと言ってしまったり…まぬけなことをたくさんしてしまいます。

学校には、このようなちょっとした“ズレ”や“ちがい”があふれています。人と人とのふれあいは、こうした小さなきっかけから始まることもあります。言葉の使い方、習慣、考え方… 私たちはつい、“自分の常識が正しい”“こっちが正しい”“これが普通”と、一つの見方や考えにとらわれがちです。でも、自分とは異なる価値観や行動に出会ったとき、それを“まちがい”と切り捨てるのではなく、「そうなんだ!」と面白がってみる、そんな心のゆとりを大切にしたいものです。子供たちに「思いやりをもちましよう」「相手の気持ちを考えましよう」と伝える私たち大人自身が、まず“ちがい”に寛容であること。それが、子供たちの心を育てる土台になるのだと思います。

5月末に曇天の恵みの下、運動会が行われました。今年もまた、子供たちの素晴らしい姿をたくさん見ることができました。伸び伸びと踊る子、全力で走る子、応援に力を込める子、係活動に徹する子、緊張で声が震えながらも大きな声を出せた子。それぞれの“らしさ”が発揮され、それぞれの場所で“主役”として輝いていました。一人一人ちがう形での達成感、誇らしげな笑顔、そのどれもが尊く、価値あるものでした。

そして6月、「ふれあい月間」を迎えます。“ふれあい”とは、ただ仲良くすることだけではありません。価値観や行動、表現の仕方はみんなちがいます。自分とはちがうことに会ったとき、たとえすぐには分かり合えなくても、その“ちがい”を大切にして、理解しようとする姿勢を育てることが重要だと考えています。だからこそ、ふれあい月間では「ちがいに気づく」「ちがいを認める」「ちがいを楽しむ」という3つのキーワードを改めて大切にして子供たちと共に過ごしていきます。

生活指導主任として校内を見回っていると、御家庭や地域の宝である子供たち一人一人を大切に思い、日頃から小さな声に耳を傾けている教職員の姿をよく目にします。また、「この子はなぜ、今こうしたのか」「この行動の奥にある思いは何か」— そう問いながら、正解のない答えに向き合い続ける多くの姿を見かけます。そこには、時に一緒に悩みながら、自分とはちがう子供たち一人一人に寄り添う温かなまなざしがあります。

「まちがい」としてとらえるのではなく、「ちがい」として楽しむ。「ま」—文字を抜くだけで、毎日一緒に過ごす身近な人やどこかでつながっているであろう見知らぬ人や文化を大切にできそうな気がします。

失敗やちがいを通して、誰かと笑い合える居心地のよい場所—  
みんなが認め合い、安心して自分らしくいられる和泉小学校—

ふれあい月間を通して、そんな温かな空気が、校内にも地域にも一層広がることを願って、本校教職員一同、今月も子供たちと向き合っていきます。

### 6月の安全指導 雨の日の交通安全・廊下の安全歩行

○梅雨の時期ということで、傘の扱い方や安全な登下校について指導します。また、梅雨の時期は廊下などが湿り、滑りやすくなるので廊下の安全歩行についても指導します。

### ふれあい月間

6月は「ふれあい月間」です。学校では、たくさんの子供たちがいるので、トラブルやもめ事が必ず起きます。しかし、いじめは絶対にいけません。学校は、いじめを許しません。そこで、ふれあい月間では、子供たちがよりよく学校を過ごせているかを知るための「心のアンケート」を実施したり、道徳の学習でいじめや人との関わりについて考えたりしながら「いじめ」について考え、いじめ防止の意識をより高めていきます。そして、いじめのない学校を目指し、全教職員で和泉小の子供たちを見守り、よりよく過ごせるように今後も指導していきます。